

1. 位置・地勢

(1) 位置・自然

本町は、鹿児島県の北西部、北薩地域の中心部に位置し、町の北部には紫尾山（標高 1,067m）があり、ここから分岐する山々に囲まれた盆地で、東西 27.3km、南北 22km の範囲におよび総面積は、303.90 km²となっている。また、町のほぼ中心を南九州一の大河である川内川が貫流しており、田園や緑豊かな森林、小川のせせらぎや温泉など自然あふれる町である。

(2) 気候

気候は、太平洋岸気候区に属しており、周囲を山々に囲まれた盆地であるため、夏は蒸し暑く、冬の冷え込みが厳しい内陸性の気候となっている。年間の降水量は、2,700 mm を超え、6 月の平均雨量は約 600 mm と年間を通じて最も多く、また年間の平均気温は 16℃ で、冬は紫尾山に冠雪や樹氷が見られ、平野においても積雪を観測することもある。

(3) 交通

国道 3 路線（国道 267 号、328 号、504 号）が町の中心部で交差しており、1 日延べ 3 万台を超える車両の往来がある。東に鹿児島空港や九州縦貫自動車道「横川 IC」、西に九州新幹線の川内駅、出水駅等があり、県都鹿児島市など主要拠点地に 1 時間以内に行くことができる恵まれた位置にある。

今後、南九州西回り自動車道や地域高規格道路「北薩横断道路」の整備により、県内主要拠点へのアクセスが更に向上し、地域資源や観光イベントと相まって、交流人口の増加への期待が膨らんでいる。

図表 本計画の対象地域：鹿児島県さつま町



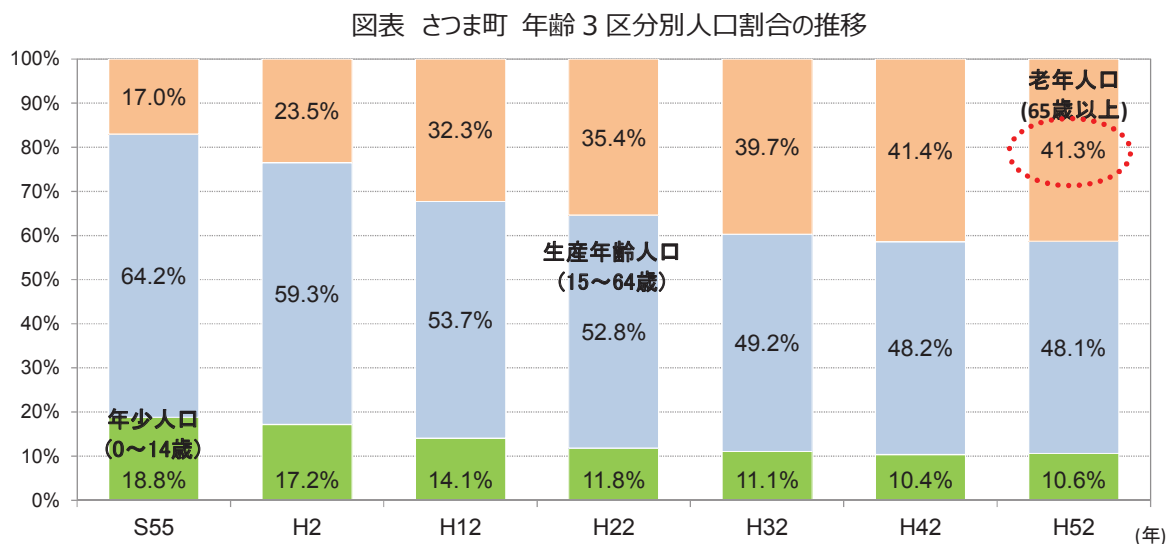
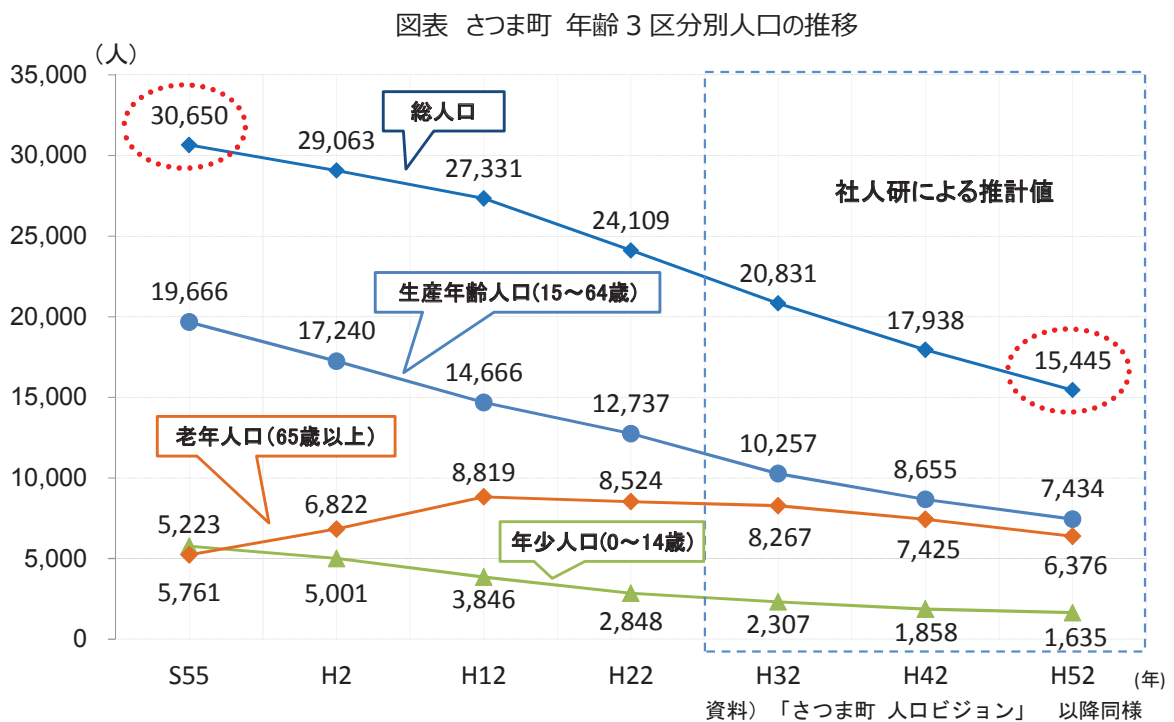
第Ⅱ章 町の概要

2. 人口

(1) 人口動態

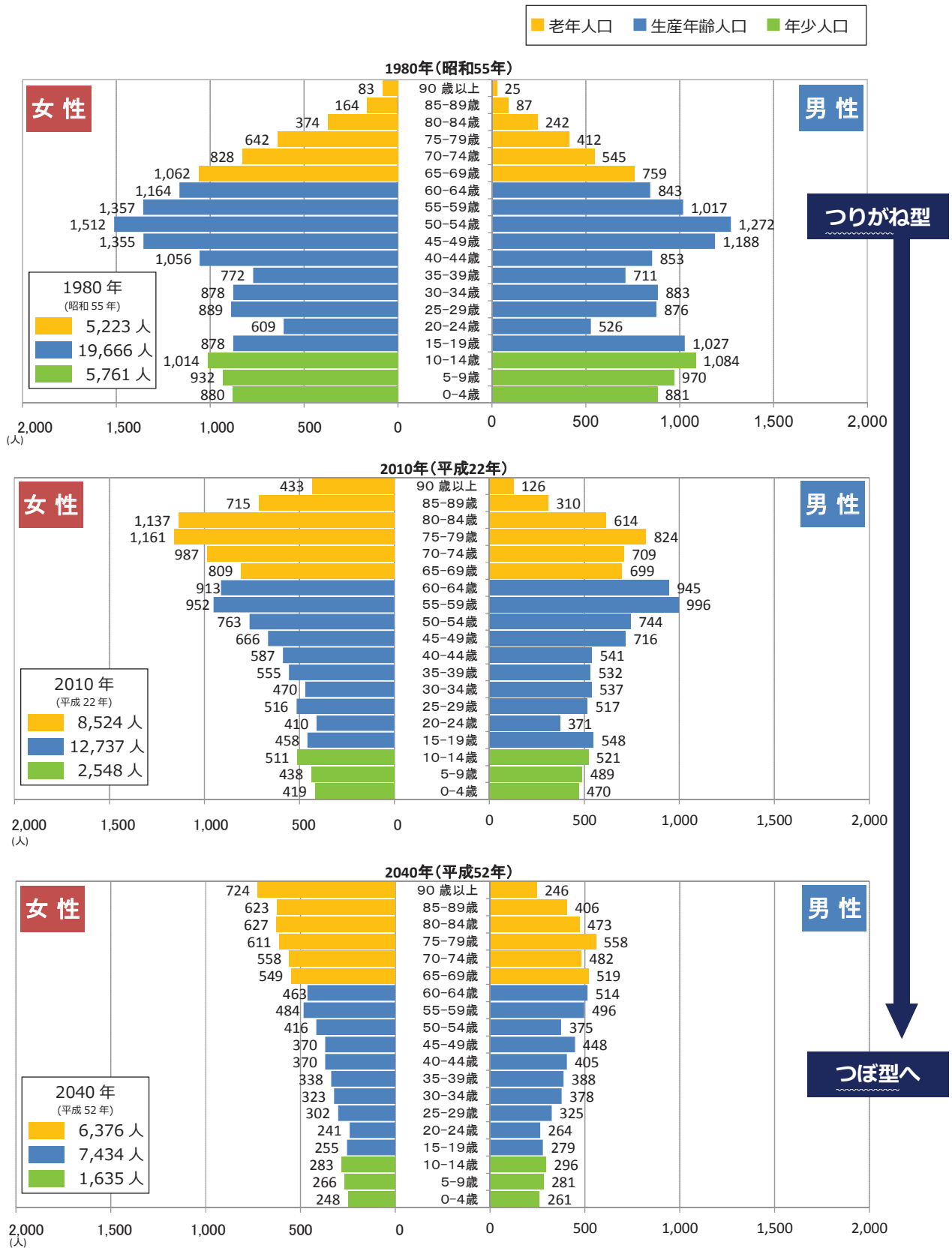
さつま町の総人口は、減少傾向にある。国立社会保障・人口問題研究所の試算では、今後も減少すると推計されており、平成 52 年には 1.5 万人と昭和 55 年の 3.0 万人から半減するとされている。

うち、65 歳以上の老年人口は、平成 12 年以降、減少傾向にあり、総人口と同様に今後も減少し、平成 52 年には 6.3 千人と推計されている。一方、老年人口の割合（高齢化率）は増加傾向にあり、平成 42 年には総人口の 4 割を超えると推計されている。



第Ⅱ章 町の概要

図表 さつま町 人口ピラミッドの推移

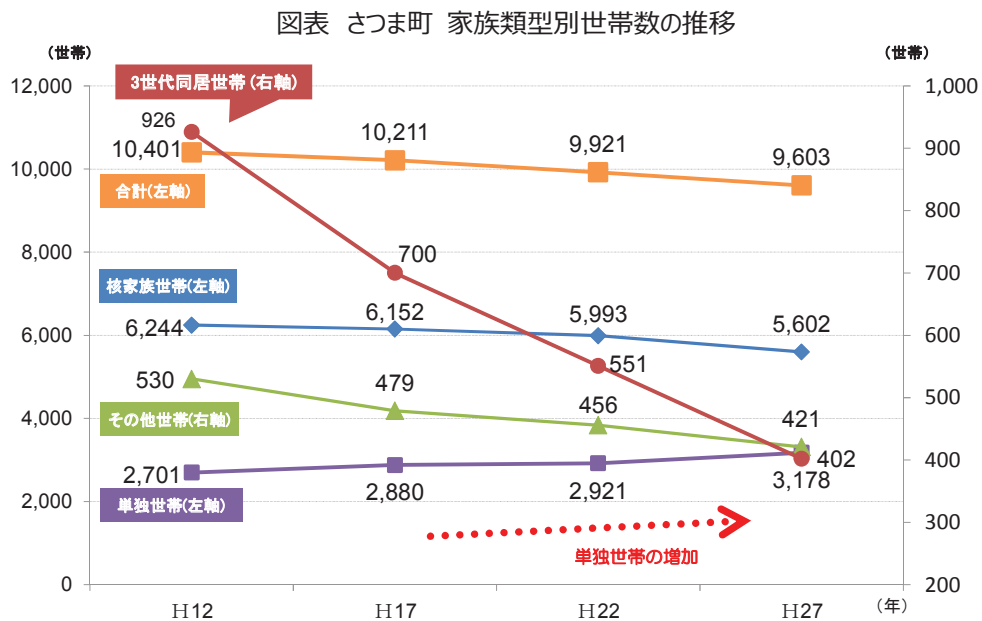


第Ⅱ章 町の概要

(2) 世帯の状況

さつま町の世帯数の推移をみると、総世帯数は減少しており、平成 22 年には 1 万世帯を下回っている。うち「核家族世帯」、「3 世代同居世帯」、「その他世帯」が減少しているのに対し、世帯人員が一人である「単独世帯」のみが増加している。

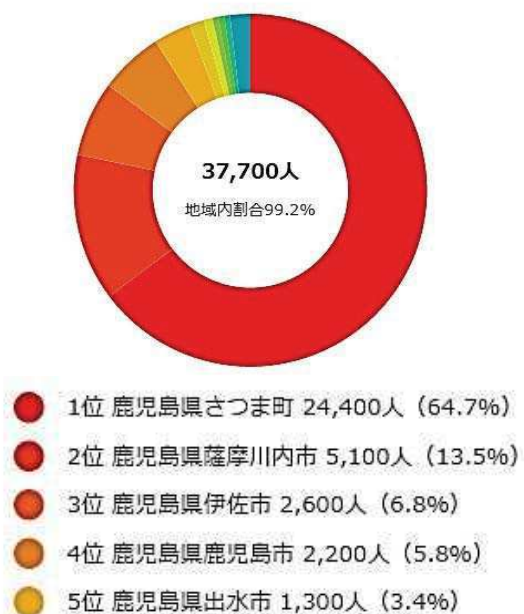
「単独世帯」が増加している要因の一つとして、高齢夫婦の世帯で、配偶者と死別後に子どもと同居しないケースが増加し、高齢者の単独世帯が増加していることが考えられる。



(3) さつま町の滞在人口

さつま町の平日の滞在人口をみると、平成 26 年は県内 37,700 人となっており、滞在人口率（町の人口に対する倍率）は 1.56 倍と高い倍率となっている。

図表 さつま町の滞在人口（平日、県内）



第Ⅱ章 町の概要

(4) 地区別人口の推移

昭和50年から平成27年の40年間の増減を地区別にみると、宮之城地区（旧宮之城町）が25.1%（5,009人）減少、鶴田地区（旧鶴田町）が23.2%（1,242人）減少、薩摩地区（旧薩摩町）が46.8%（2,938人）減少となっており、3地区ともに減少率が二桁を超えている。

また、平成22年から平成27年の5年間においても、宮之城地区が5.4%（855人）の減少、鶴田地区が8.8%（398人）の減少、薩摩地区が12.0%（456人）の減少となっており、3地区ともに減少傾向が続いている。

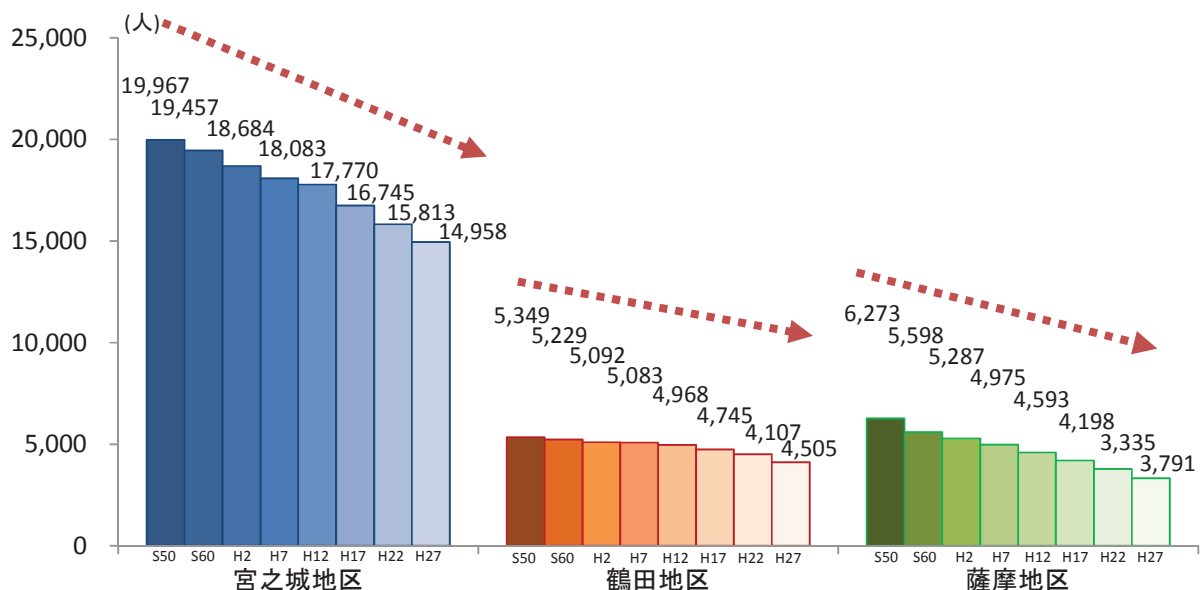
図表 地区別の人口推移

(単位：人、%)

区分		さつま町				鹿児島県	全国
		宮之城地区	鶴田地区	薩摩地区			
人口	S50	31,589	19,967	5,349	6,273	1,723,902	111,939,643
	S60	30,284	19,457	5,229	5,598	1,819,270	121,048,923
	H2	29,063	18,684	5,092	5,287	1,797,824	123,611,167
	H7	28,141	18,083	5,083	4,975	1,794,224	125,570,246
	H12	27,331	17,770	4,968	4,593	1,786,194	126,925,843
	H17	25,688	16,745	4,745	4,198	1,753,179	127,767,994
	H22	24,109	15,813	4,505	3,791	1,706,242	128,057,352
	H27	22,400	14,958	4,107	3,335	1,648,177	127,094,745
増減率	H50～H27	▲29.1	▲25.1	▲23.2	▲46.8	▲4.4	13.5
	H2～H7	▲3.2	▲3.2	▲0.2	▲5.9	▲0.2	1.6
	H7～H12	▲2.9	▲1.7	▲2.3	▲7.7	▲0.4	1.1
	H12～H17	▲6.0	▲5.8	▲4.5	▲8.6	▲1.8	0.7
	H17～H22	▲6.1	▲5.6	▲5.1	▲9.7	▲2.7	0.2
	H22～H27	▲7.1	▲5.4	▲8.8	▲12.0	▲3.4	▲0.8

資料) 国勢調査 以降同様

図表 宮之城、鶴田、薩摩地区における人口推移

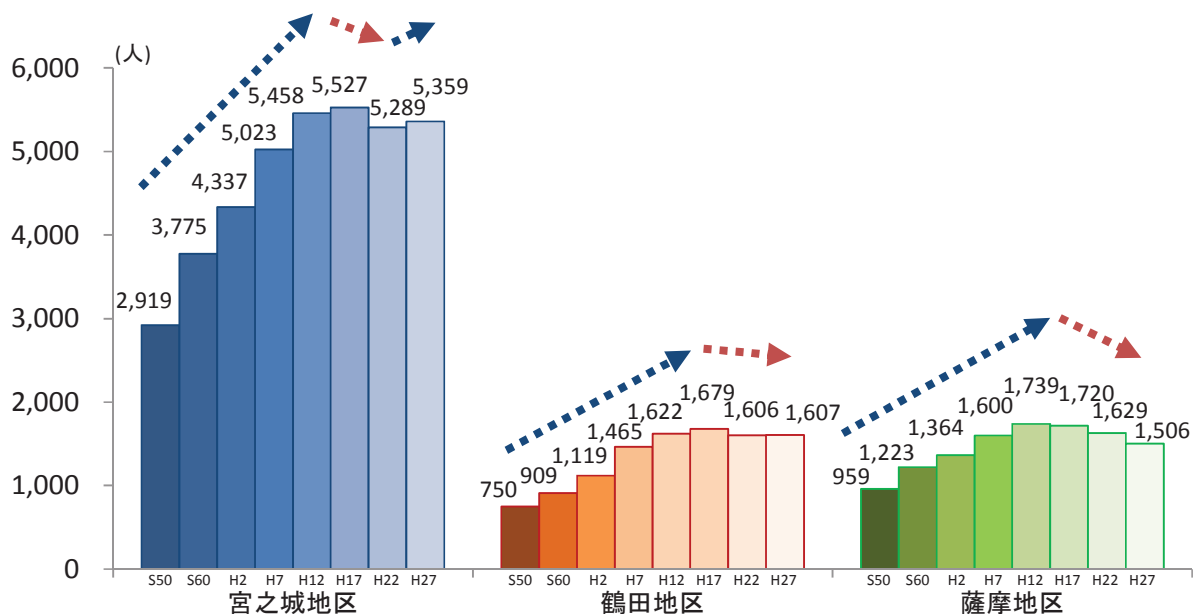


第Ⅱ章 町の概要

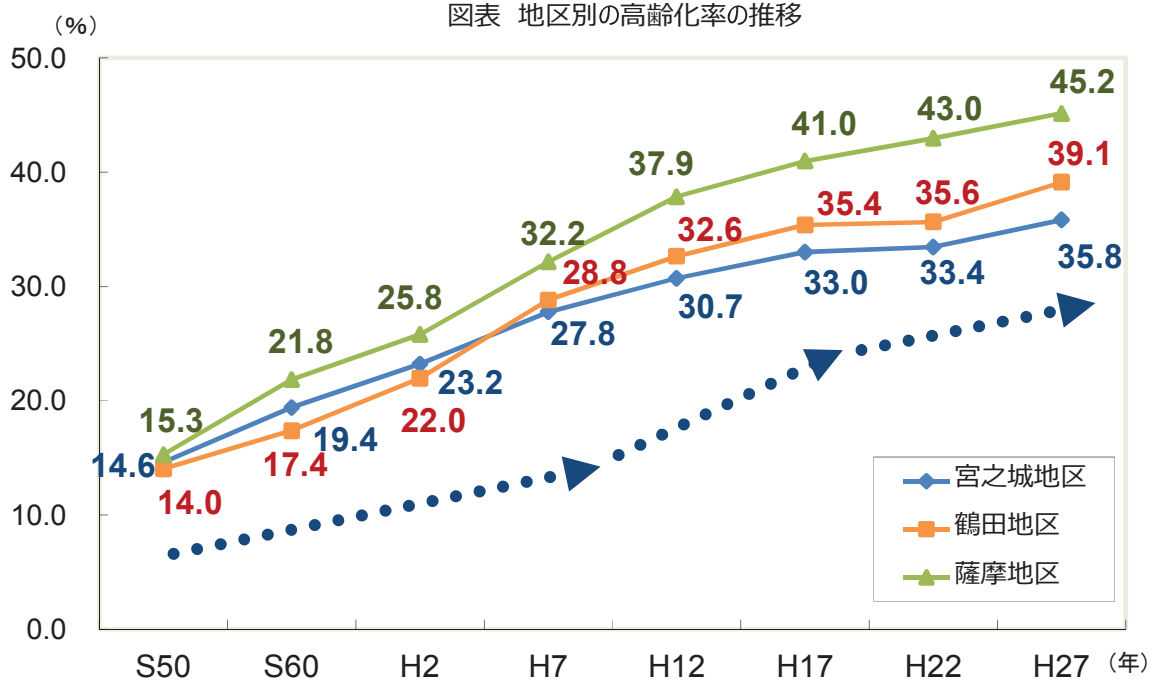
昭和 50 年から平成 27 年の 40 年間の老年人口の増減を地区別にみると、いずれの地区も昭和 50 年以降、増加傾向となっているが、宮之城地区は平成 17 年をピークに平成 22 年は減少、平成 27 年はやや増加している。鶴田地区も同様に平成 22 年は減少し、平成 27 年は横ばい、薩摩地区は平成 12 年をピークに以降は減少傾向となっている。

また、各地区の高齢化率の推移をみると、いずれの地区も昭和 50 年以降、増加傾向となっているが、徐々に増加は緩やかになってきている。

図表 地区別の老年人口（65 歳以上）の推移



図表 地区別の高齢化率の推移



第Ⅱ章 町の概要

3. 移動目的地となる主要施設の状況

(1) 町内の主要施設

移動目的地となる町内の主要施設は以下となっている。

図表 さつま町内の公共施設、商業施設

施設区分	施設名	施設区分	施設名		
主な公共施設	本庁・支所	さつま町役場	主な公共施設	山崎小学校	
		鶴田支所		盈進小学校	
		薩摩支所		流水小学校	
	消防・救急	さつま町消防署（消防本部）		佐志小学校	
				鶴田小学校	
	保健センター、福祉施設	宮之城保健センター		柏原小学校	
		老人福祉センター いぬまき荘		求名小学校	
		鶴田保健センター		永野小学校	
		宮之城ひまわり館（社会福祉協議会）		中津川小学校	
		太陽福祉センター		山崎中学校	
		地域包括支援センター		宮之城中学校	
	生活環境施設	環境センター（し尿処理）		鶴田中学校	
		グリーンセンター（ごみ焼却）		薩摩中学校	
		やすらぎ苑（火葬場）		県立薩摩中央高等学校	
	生涯学習、社会教育、文化、スポーツ施設	宮之城文化センター		県立宮之城高等技術専門学校	
		宮之城歴史資料センター		商業施設	A・コープ鹿児島／さつま店
		ふるさと薩摩の館			A・コープ鹿児島／山崎店
		屋地楽習館			株式会社クッキー鶴田店
		鶴田中央公民館			コメリハード&グリーン宮之城店
		薩摩農村環境改善センター	ディスカウントドラッグコスモス宮之城店		
		宮之城運動公園（総合グラウンド・多目的芝生広場）	ブラッセだいわ宮之城店		
		宮之城総合体育館	二階堂商店		
		宮之城屋内温泉プール	ひがしストアー		
		鶴田体育館	フレッシュくまだ		
		薩摩総合運動公園	段商店		
		B&G海洋センター（プール・体育館）	セブン-イレブン／さつま町船木店		
		物産品販売所	宮之城ちくりん館		セブン-イレブン／さつま町宮之城屋地店
			平川郷		ファミリーマート／さつま旭町店
	せせらぎの郷二渡		ファミリーマート／轟町店		
	つるだ特産品販売所「自慢館」		ファミリーマート／田原店		
	さつま特産品直売所		ファミリーマート／広瀬店		
	さつま物産館		ファミリーマート／山崎店		
			ローソン／さつま町山崎店		

資料）さつま町ホームページ、町勢要覧等より抜粋。以降同様

第Ⅱ章 町の概要

図表 さつま町内の金融機関、観光施設、宿泊施設

地域区分	施設名	地域区分	施設名	
金融機関、 郵便局	北さつま農業協同組合本所	観光施設	宮之城伝統工芸センター	
	北さつま農業協同組合山崎支所		ガラス工芸館	
	北さつま農業協同組合鶴田支所		観音滝公園交流センター	
	北さつま農業協同組合薩摩支所		健康ふれあいセンターあびる館	
	鹿児島銀行宮之城支店		鹿児島県立北薩広域公園	
	南日本銀行宮之城支店		郷土文化保存伝習館	
	鹿児島信用金庫宮之城支店		ふるさと創生館	
	鹿児島興業信用組合宮之城支店		宮之城鉄道記念館	
	北さつま農業協同組合旧永野支所		永野鉄道記念館	
	舟木簡易郵便局		大鶴ゆうゆう館	
	虎居簡易郵便局		インターナショナルゴルフリゾート京セラ	
	永野郵便局		紫尾区大衆浴場	
	永野金山郵便局		宿泊施設	観音滝温泉滝の宿
	久富木簡易郵便局			旅館 玉之湯
	宮之城郵便局			手塚旅館
	求名広橋簡易郵便局			観光ホテル福田荘
	薩摩郵便局	旅館 ちさと		
	狩宿簡易郵便局	旅館 湯田荘		
	宮之城佐志郵便局	旅籠 しび荘		
	山崎郵便局	四季の杜 紫尾庵		
	紫尾郵便局	紫尾湯の宿 くすのき荘		
	中津川郵便局	旅館 ちどり荘		
	鶴田郵便局	ちくりん温泉		
	宮之城湯田郵便局	旅館 出水荘		
	鶴田柏原簡易郵便局	インターナショナルゴルフリゾート京セラ		
	泊野簡易郵便局	平和温泉		
白男川簡易郵便局	旅館 藤田館			
宮之城平川郵便局				

第Ⅱ章 町の概要

(2) 医療施設の立地状況

さつま町内の医療施設の多くが「宮之城地区」に集積しており、他の地区の住民の多くが「宮之城地区」に通院している。

図表 さつま町内の医療機関



地域区分	施設名
宮之城地区	うかり眼科
	かわごえ歯科
	クオラリハビリテーション病院
	さくらクリニック
	すずき耳鼻咽喉科
	てらだ内科クリニック
	ふくおか歯科クリニック
	ほだて歯科
	稲津病院
	海江田医院
	鬼丸整形外科
	宮之城病院
	溝口整形外科
	薩摩郡医師会病院
	小緑内科

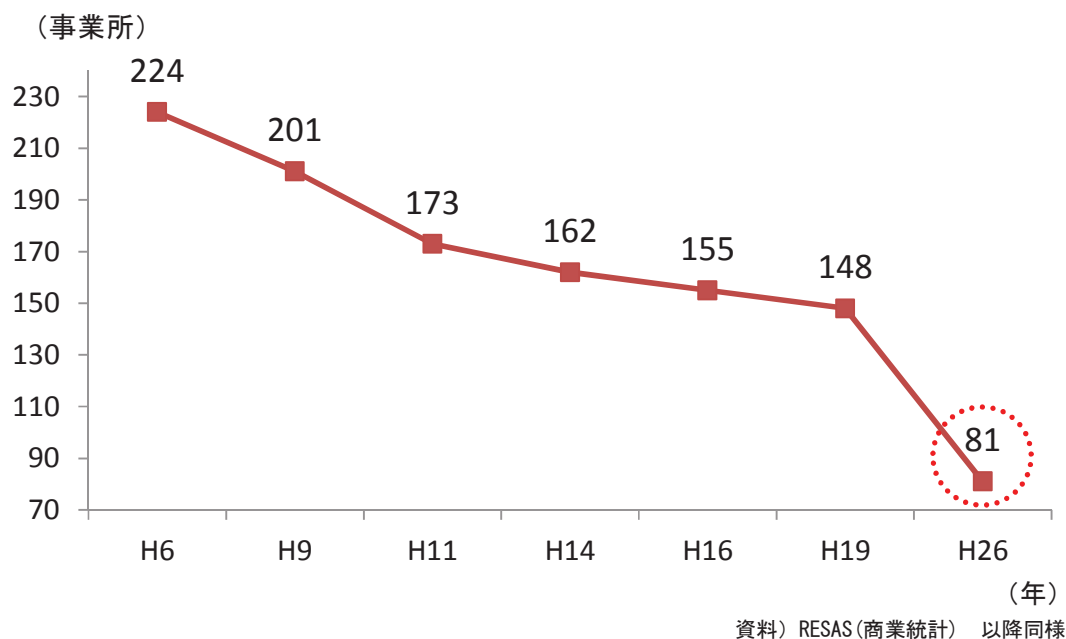
地域区分	施設名
宮之城地区	杉田歯科医院
	相良医院
	島田医院
	東内科クリニック
	尾形歯科医院
	福岡歯科医院
	木原医院
	立志病院
	林田歯科クリニック
林田内科	
鶴田地区	たさかわ歯科医院
薩摩地区	さつまクリニック
	四位歯科医院
	ますざき医院

第Ⅱ章 町の概要

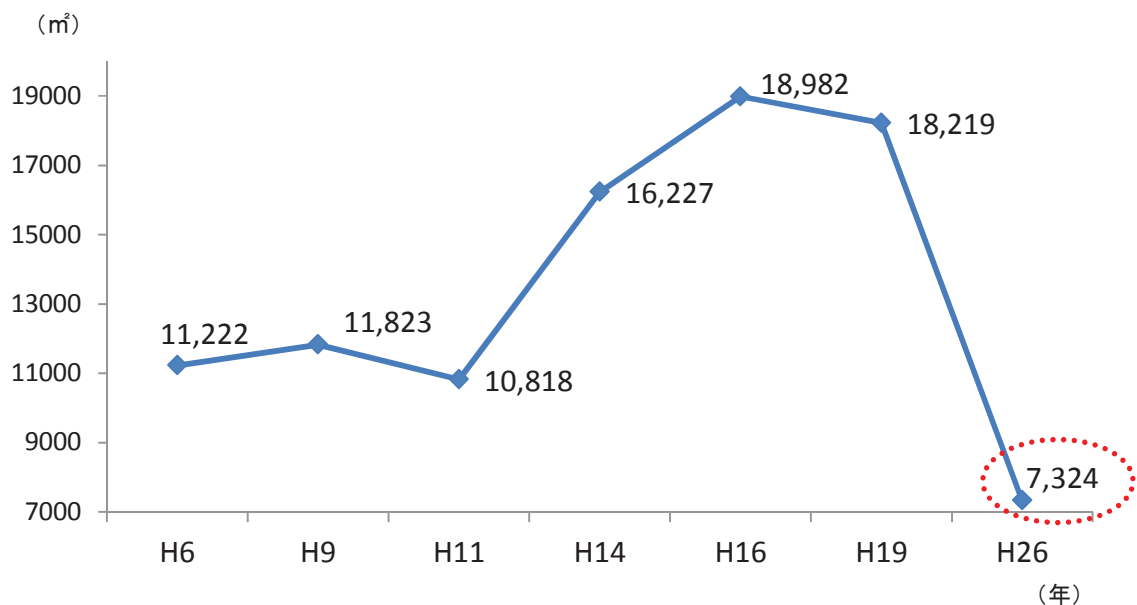
(3) 飲食料品小売業の状況

地域経済分析システム（RESAS）を利用し、さつま町の飲食料品小売業の事業所数の推移をみると、平成6年以降、減少傾向となっており、平成26年は81事業所と平成6年の224事業所の3分の1近くにまで減少している。一方、売り場面積の推移をみると、これまでは増加傾向にあったものの、平成19年からは減少傾向に転じ、特に平成26年は、前年に大型店舗の撤退があったことから、平成19年の4割近くにまで大きく落ち込んでいる。

図表 さつま町の飲食料品小売業（事業所数）



図表 さつま町の飲食料品小売業（売り場面積）



第Ⅱ章 町の概要

(4) 買い物弱者の状況

農林水産省の試算では、生鮮品販売店舗までの距離 500m以上かつ自動車を持たない高齢者は全国で 3,800 千人いると推計されている。その試算によると、鹿児島県においても 88 千人が存在するとされており、本県の 65 歳以上の総人口に占める割合は 2 割弱（19.6%）と全国でも 2 番目に高い割合となっている。

買い物弱者の問題においては、単に「買物が不便である」ということにとどまらず、栄養の偏りによる健康問題やコミュニティ崩壊による高齢者の孤立等の側面もあり、高齢化が全国より早く進行している本県にとって対応が急がれる問題となっている。

図表 生鮮品購入が困難な高齢者人口

順位	生鮮品販売店舗まで500m以上			うち自動車を持たない		
	都道府県	65歳以上 総人口比 (%)	65歳以上 人口 (千人)	都道府県	65歳以上 総人口比 (%)	65歳以上 人口 (千人)
1	島根県	64.4	134	長崎県	20.1	74
2	岐阜県	62.6	313	鹿児島県	19.6	88
3	岩手県	62.2	224	高知県	18.6	41
4	長野県	60.0	342	北海道	18.3	248
5	滋賀県	60.0	173	広島県	17.7	120
6	茨城県	59.4	395	島根県	17.1	35
7	鳥取県	57.2	88	岡山県	17.0	83
8	秋田県	57.0	183	徳島県	16.9	35
9	三重県	56.5	253	岩手県	16.8	61
10	徳島県	55.8	117	兵庫県	16.6	213
11	福島県	55.6	281	愛媛県	16.6	63
12	岡山県	54.3	263	山口県	16.4	67
13	鹿児島県	53.9	242	熊本県	16.0	74

	全国	38.9	11,000	全国	13.1	3,800

43	福岡県	30.4	342	静岡県	9.5	85
44	京都府	28.7	174	富山県	9.3	27
45	神奈川県	20.6	374	沖縄県	9.1	22
46	大阪府	16.7	329	山形県	8.9	29
47	東京都	9.3	246	東京都	6.5	172

資料) 農林水産省農林水産政策研究所

第Ⅱ章 町の概要

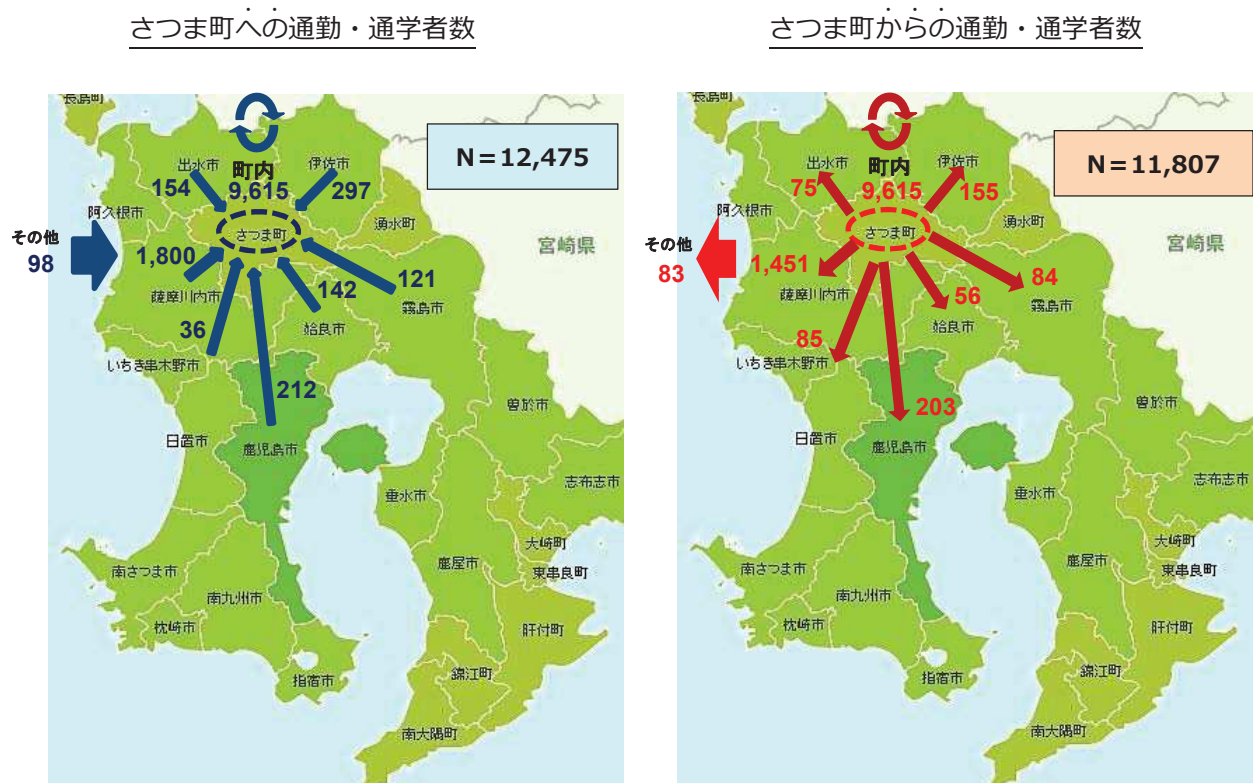
4 通勤・通学流動

他の自治体から本町への通勤・通学の状況を見ると、「薩摩川内市」からの通勤・通学者が最も多く 1,800 人となっている。次いで「伊佐市」が 297 人、「鹿児島市」が 212 人、「出水市」が 154 人、「始良市」が 142 人と多くなっている。

一方、本町からの通勤・通学の状況を見ると、同様に「薩摩川内市」への通勤・通学者が最も多く 1,451 人となっている。次いで、「鹿児島市」が 203 人、「伊佐市」が 155 人、「いちき串木野市」が 85 人、「霧島市」が 84 人と多くなっている。

本町は交通の要衝であることから、「町への」また「町からの」通勤・通学が多地域に及んでいる。

図表 さつま町への通勤・通学者数の状況



順位	地域	①さつま町へ	②さつま町から	①と②の差 (①-②)
1	薩摩川内市	1,800 人	1,451 人	+ 349 人
2	伊佐市	297 人	155 人	+ 142 人
3	鹿児島市	212 人	203 人	+ 9 人
4	出水市	154 人	75 人	+ 79 人
5	始良市	142 人	56 人	+ 86 人